明治

エンジン形パッケージ
エアコンプレッサ

取扱説明書

形式 APET－37CY
APET37CY－140

当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず保存してください。

株式会社 明治機械製作所

圧力換算表

kgf/㎠	MPa
0.2	0.02
2	0.20
3	0.29
4	0.39
5	0.49
5.5	0.54
6	0.59
7	0.69
7.7	0.76
8	0.78
8.5	0.83
9	0.88
9.3	0.91
10	0.98
11	1.08
12	1.18
14	1.37
15	1.47
17	1.67
20	1.96
22	2.16
25	2.45
27.5	2.70
30	2.94
45	4.41
48	4.70
50	4.90

この度は、明治のエアコンプレッサをお買い上げいただきありがとうございます。

はじめに

●この取扱説明書は、**エアコンプレッサ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ正しくお取扱いただき、最良の状態でご使用ください。

●お読みになった後も、**必ず製品に近接して保存**してください。

●製品を貸与又は譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失又は損傷された場合、また警告ラベルが破損・剥離・退色して見えにくくなったら速やかに当社又は当社の特約店・販売店にご注文ください。

●尚、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

●ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買上げまたお近くの特約店・販売店にお問合せください。

●⚠印付きの下記マークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

⚠ 危険	適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険性が極めて大きいことを示します。
⚠ 警告	適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が存在することを示します。
⚠ 注意	安全な取扱に対する助言、あるいは適切な事前注意を払わなかった場合に、傷害または製品の重大な破損に至る可能性があることを示します。

目　　次

安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと　2

各部の名称　4

お使いになる前に　6

運転のしかた　8

1．始動……8　2．停止……10

各部の働き

1．オイル警報装置　2．スローダウン装置

3．エコノミー運転

定期の点検・調整について　13

1．エアクリーナ……13　2．バッテリー…13

3．アンローダパイロット弁…14　4．安全弁……15

5．オイル交換……16　6．エンジン……16

定期点検基準表　17

長期間使用しない場合の保管について　18

不調診断　19

仕様　20

サービスと保証について　21

安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと

⚠ 警告

●屋外など、第三者（子供・一般の人々）が立ちいる場所で使用するとき、監督者が注意を払えない場合には、代行者を置くか、防護柵を設けるか安全上必要な処置を行ってください。

●本機で圧縮した圧縮空気は、人の呼吸用や人体には使用できません。
呼吸用・人体に使用すると呼吸困難・呼吸障害をおこし、死亡の原因となります。

●エンジンの排気ガスは、非常に有毒です。換気されていない場所では運転しないでください。
換気の悪い場所では、一酸化炭素がたまってガス中毒又は、死亡の原因となります。ご使用になる方はもちろんまわりの人や家畜などにも十分注意してください。

●ディーゼル軽油は燃え易いものですので、下記のことを注意して取扱ってください。
取扱いをまちがえるとヤケド・ヤケドによる死亡、家屋の火事の原因となります。

1）ディーゼル軽油の保管は保管用の容器で行ってください。
2）ディーゼル軽油を扱っている間は、タバコ等火気を扱わないでください。
3）清潔で整理整頓された場所で火気のない所で扱ってください。
4）エンジンがまだ暖かい時やエンジンが回っている時は、燃料タンクの蓋を外さないでください。
5）ディーゼル軽油補給はエンジンを止めてから行ってください。
6）エンジンが熱い時には燃料を補給しないでください。エンジンが冷えるまで待ってください。
7）ディーゼル軽油補給後は、燃料タンクの蓋を確実にしめて運転中・移動中にこぼれないようにしてください。
8）エンジンの始動前に、燃料を補充した時点から最低3メートル離れて使用してください。
9）ディーゼル軽油・オイルをこぼさないでください。こぼれたらふきとり完全に乾かしてください。

●引火性のあるガス・爆発性の可燃物（アセチレン・プロパン・シンナー・ガソリン・塗料等）のない場所で使用してください。

もし使用して事故が発生すると、人身・建造物に重大な損害を与えます。

●運転中・運転直後は、エンジンの排気マフラー・コンプレッサのシリンダカバーは高温になっていますので手を触れないでください。

ヤケドの原因となります。

●移動・点検時には、空気タンクの圧力をゼロにするため空気弁又は、ドレン弁を開けてください。

圧力があるにもかかわらず圧力計などの加圧部を交換しようとすると、その部品が飛びケガ・建造物の破損の原因になります。

⚠注意

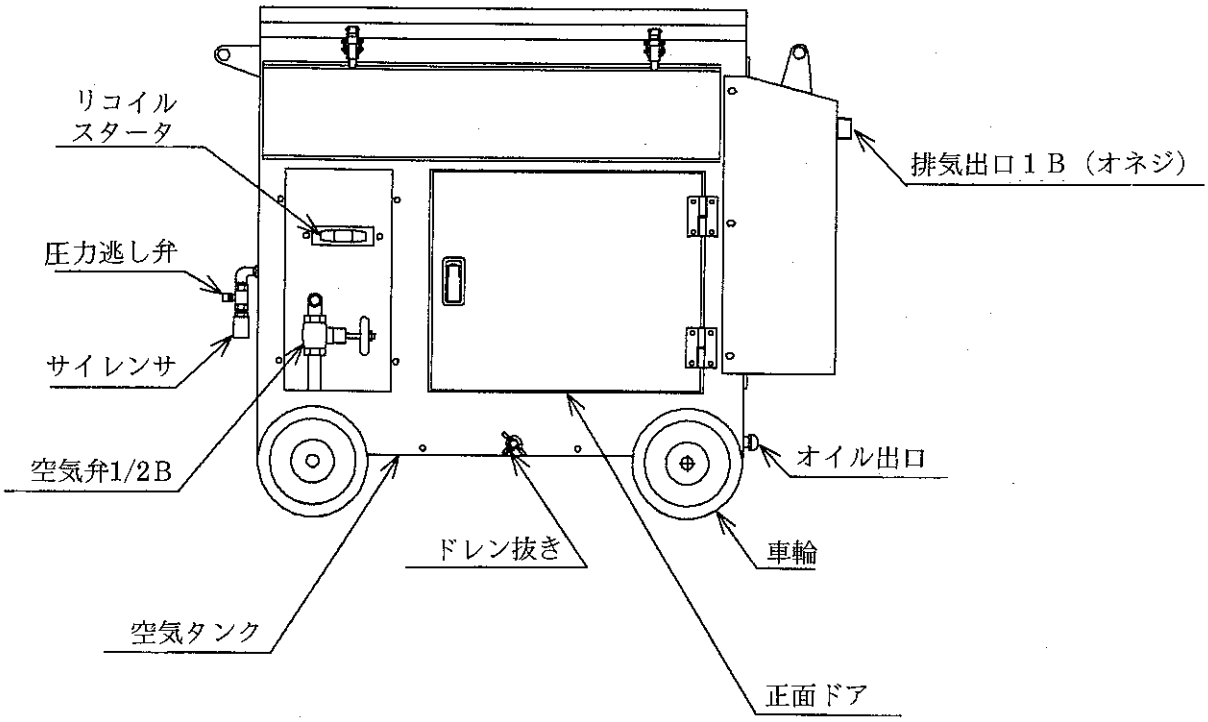
●作業前・作業後に必ず点検を

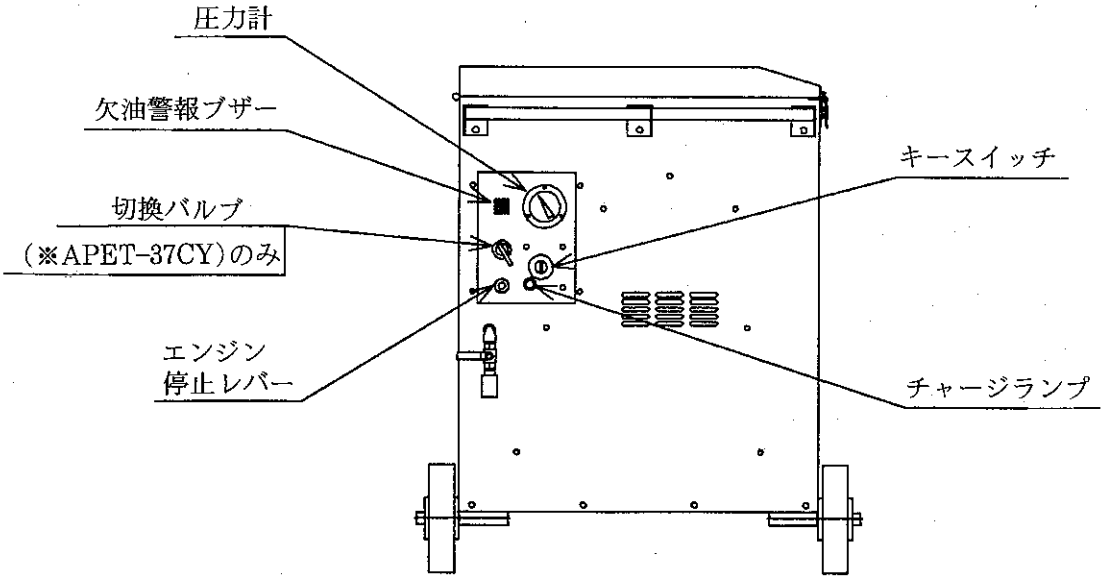
本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常個所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックして下さい。

●本機を輸送・点検・調整するときは、エンジンが止まっていることを確認してください。

●エンジンの取扱いについては、エンジンの取扱説明書を熟知するまでお読みください。

各部の名称

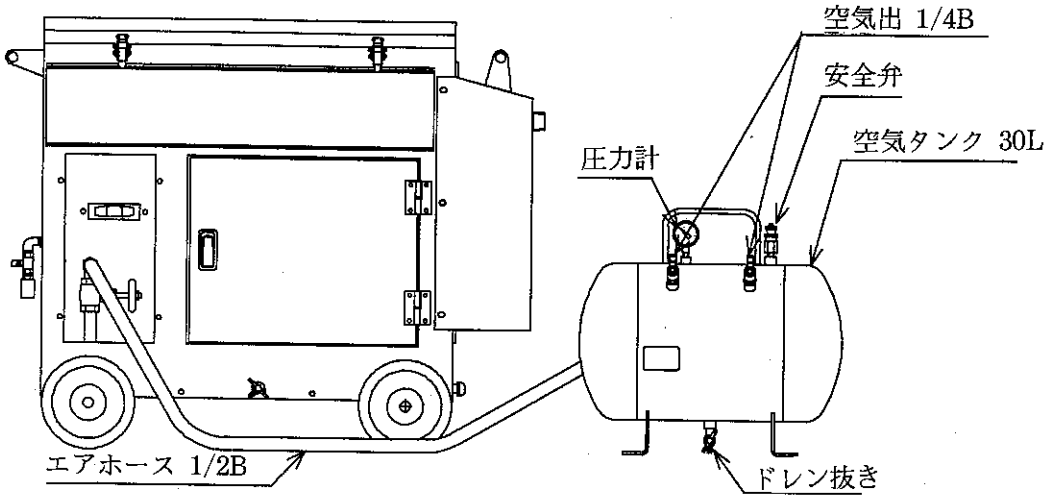

リコイル
スタータ
排気出口１Ｂ（オネジ）
圧力逃し弁
サイレンサ
空気弁1/2B
オイル出口
ドレン抜き
車輪
空気タンク
正面ドア


圧力計
欠油警報ブザー
キースイッチ
切換バルブ
(※APET-37CY)のみ
エンジン
停止レバー
チャージランプ

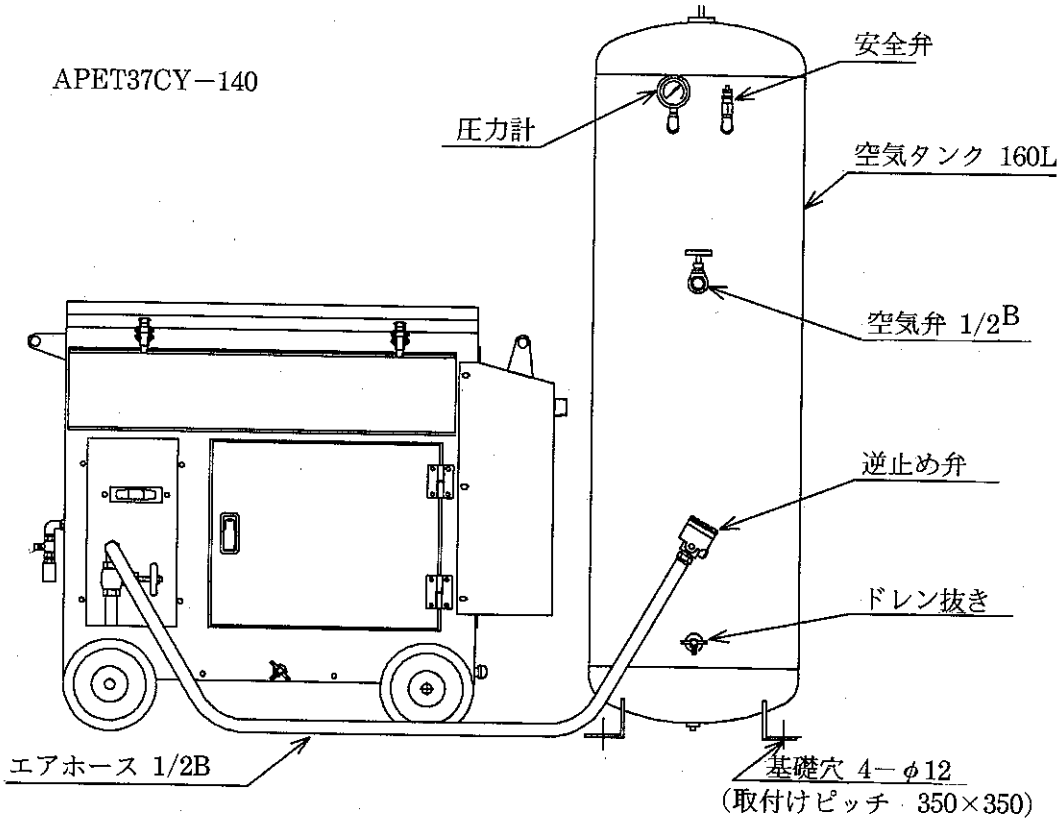
空気タンクセット図

（空気タンクは必ずセットして使用してください。）

APET－37CY



APET37CY－140



お使いになる前に

●APET－37CY・APET37CY－140に使用する燃料はディーゼル軽油で運転されます。

ディーゼル軽油は、燃え易い燃料です。
燃料はこぼさないように補給し、もしこぼれたら十分ふきとってください。
火災によるケガを避けるため、ディーゼル軽油を扱うときは、タバコを吸わず炎・火花を近づけないでください。

ディーゼル軽油は常に新しいものをお使いください。
一度購入したディーゼル軽油は、30日以内に使ってください。

●バッテリーの取扱いについては、バッテリーの取扱説明書を熟知するまでお読みください。
充電・放電を繰り返しますと、バッテリー液は減少します。
始動前に液量の点検を行い、少なければ市販の蒸留水を上限レベルまで補給してください。
バッテリー液が少なくなると、充電できなくなり、セルモータによる始動ができなくなります。

バッテリーは取扱いを誤ると重大なケガ・死亡の原因につながります。
○火気厳禁
○充電する時は、バッテリーのキャップを開け換気の良い場所で行ってください。
○バッテリー液には十分注意してください。
○＋・－の極を正しく接続してください。

●コンプレッサは必ず屋外で使用してください。

室内やトンネル内のような換気の悪い場所で使用すると、排気ガスにより中毒をおこす事があります。

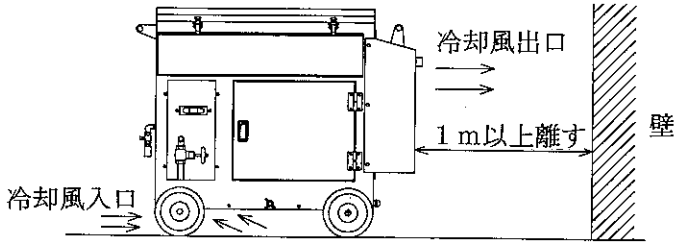
●車輪にガタが有ると異常振動の原因になります。
異常振動により、コンプレッサ・エンジンの損傷の原因になります。

●傾斜のない平坦な場所を選んで運転してください。
5°以上傾けて長時間運転するとコンプレッサ、エンジンの損傷の原因となります。

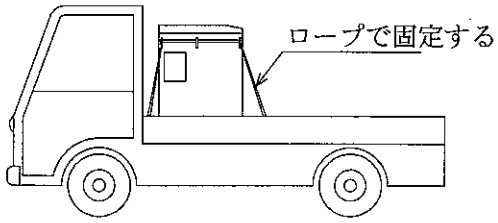
●清浄な空気を吸入できるようにしてください。
パッケージの下部に吸入口があります。周りに紙屑やゴミが無いことを確認してください。

●排気口から1m以上は、壁、物等が無いようにしてください。

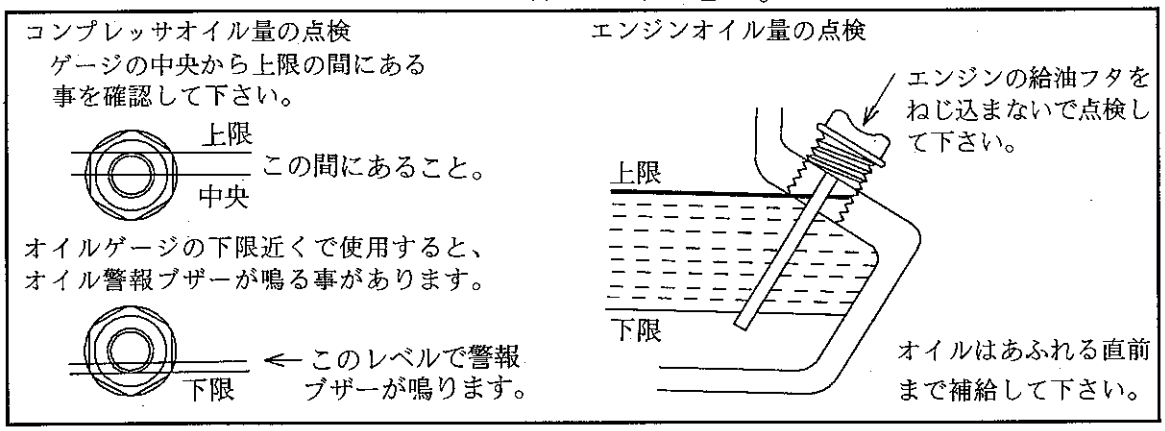
●荷台に幌が有るトラック等で使用する場合は、コンプレッサの冷却風出口の幌は外して冷却風・排気ガスがこもらないようにしてください。
排気状態が悪いとコンプレッサの正確な性能を確保できなくなるだけでなく、冷却できなくなりコンプレッサの焼付事故の原因となります。



●車上で使用する場合は、ロープ等でしっかり固定してください。



●夏期に使用する場合は、できるだけ建物の日影で使用してください。
●作業前・作業後には必ずコンプレッサ、エンジン共にオイル量を点検してください。
オイル量は多くても少なくても故障の原因となりますので、ゲージを見て適量にしてください。
点検はコンプレッサを水平にして行ってください。



コンプレッサオイルとエンジンオイルとは違いますのでそれぞれ指定の純正オイルを使用してください。

＊コンプレッサ　純正コンプレッサオイル　ＣＯ68
＊エンジン　エンジンオイル　ＳＡＥ10Ｗ－30
（詳細は、エンジンの取扱説明書を参照してください。）

⚠ 注意

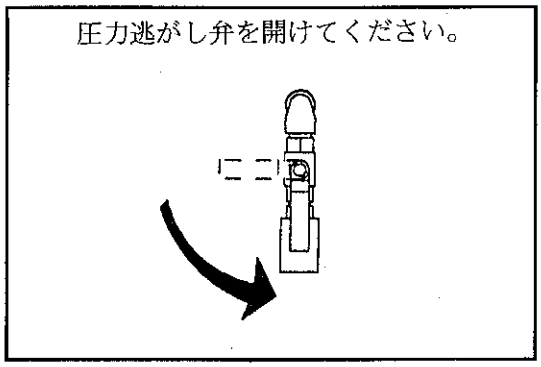
指定以外の潤滑油を使用しますと、バルブ・シリンダ・シリンダカバー・ピストン等に炭化物が付着し性能を低下させるばかりでなく、炭化物の発火や軸受部の焼付事故等、コンプレッサの損傷の原因となります。

●燃料の補給は、燃料タンクのゲージを見て給油してください。
使用途中で燃料切れになると、エンジンの回転が下がり異常振動の原因になり黒煙が多量にでます。

運転のしかた

1. 始　動

(1) 空気タンクの圧力をゼロにするため圧力逃がし弁を開けてください。
（タンクに圧力があるとエンジンの始動が困難になります。）



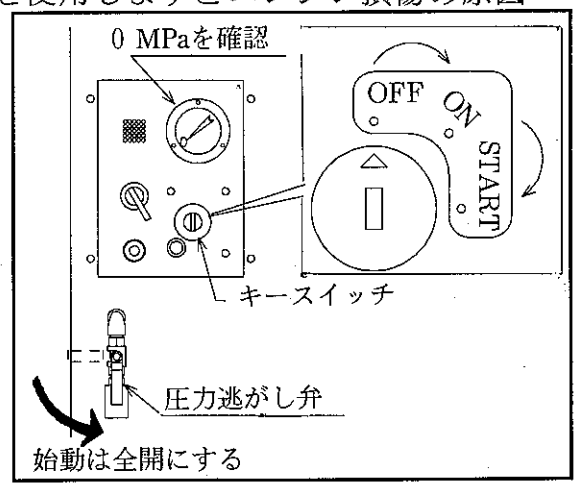
(2) 始動する前に燃料の量が十分なことを確認してください。
燃料補給後は、燃料タンクの蓋を確実にしめてください。

⚠ 注意　燃料は、水分やゴミなどの異物が混入していないものを使用してください。
混入しているものを使用しますとエンジン損傷の原因となります。

(3) セルモータによる始動

★始動方法は、エンジンの取扱説明書を参照してください。

1）燃料コックを「０」(開)の位置にする。
2）キーをキースイッチに差し込みONの位置にします。
更に右へ回す（ＳＴＡＲＴの位置）とエンジンが始動します。

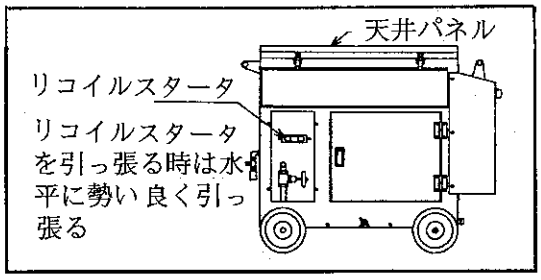


※キースイッチをＯＮにするとオイル警報ブザーが鳴りますが、異常ではありません。エンジンが始動すると止まります。
※バッテリーは、12V（24ＡＨ～36ＡＨ）を使用してください。

⚠ 注意　始動しない場合、10秒以上連続してセルモータを回さないでください。キーを戻し、一旦休んで（約15秒）から再始動してください。
又、エンジン運転中は、キースイッチをＳＴＡＲＴの位置に絶対に回さないでください。セルモータの損傷の原因になります。

手動で始動

★始動方法は、エンジンの取扱説明書を参照してください。
バッテリーが放電してしまって、セルモータが回らなくなったら手動で始動する事が出来ます。



1)燃料コックを「0」（開）の位置にする。

2)エンジンのキースイッチはＯＮにします。

3)コンプレッサの天井パネルを開け、エンジンのデコンプレバーを押します。

4)正面ドアを開け、リコイルスタータを水平に勢い良く引っ張ってください。
（始動後グリップは静かに戻してください。）

(4)エンジンが始動したらそのままの状態で、５分間程度暖機運転を行ってください。

暖機運転を行わずに圧力を上げますと、エンジンから黒煙を多量に出す事があります。

（暖機運転中は圧力逃がし弁を開けたままにしておいてください。）

(5)暖機運転を十分行った後、圧力逃がし弁を閉じて圧力を上げてください。

(6)圧力が徐々に上がり、0.98MPa〔又は1.37MPa〕になると、アンローダパイロット弁が作動しコンプレッサを無負荷状態にしてそれ以上圧力は上昇しません。それと同時にスローダウン装置が作動しエンジンの回転を下げます。

〔　〕内はＡＰＥＴ37ＣＹ－140です

(7)エアーを使用して圧力が0.78MPa〔又は1.18MPa〕まで下がるとアンローダパイロット弁が復帰し、エンジンの回転を上げ再び圧縮運転を始めます。

〔　〕内はＡＰＥＴ37ＣＹ－140です

★正常に作動することを確認した後、コンプレッサを使用してください。

⚠ 危険

排気ガスは、有毒な成分が含まれています。
排気の悪い場所では有害なガスがたまってガス中毒又は、死亡の原因となります。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や家畜などにも十分注意してください。

⚠ 危険

安全弁は必ず規定圧力内で吹き出すよう定期点検を怠らないでください。

【規定圧力　1.08MPa〔又は1.47MPa〕】
コンプレッサ・エンジンの損傷だけでなく空気タンクの破裂につながり重大なケガ・死亡の原因となります。

〔　〕内はＡＰＥＴ37ＣＹ－140です
（調整方法はＰ15を参照してください。）

⚠ 注意

アンローダパイロット弁が0.98MPa〔又は1.37MPa〕になっても作動しない、それ以上に圧力が上昇する。このような場合は、0.98MPa〔又は1.37MPa〕以下で作動するように調整してください。又、圧力は絶対に 0.98MPa〔又は1.37MPa〕以上に上げないでください。コンプレッサの損傷の原因となります。

〔　〕内はＡＰＥＴ37ＣＹ－140です
（調整方法はＰ14を参照してください。）

運転中はパッケージの正面ドア及び天井を開けたまま又は取外して運転しないで下さい。
エンジン及びコンプレッサの冷却状態が悪くなり、エンジンやコンプレッサの損傷の原因になったり、火災の原因になることがあります。

コンプレッサの近くには、可燃物や引火性のあるガスの無い状態で運転して下さい。
何らかの異常で事故が発生した場合、人身・建物・搭載している車等に重大な損害を与える事が有ります。
また火災の原因にもなる事がありますので、絶対近くに可燃物や引火性のあるガスなどを置かないようにして下さい。

パッケージ内や周りにこぼれた燃料は必ず拭き取って下さい。
また防音材についた燃料もきれいにふき取って下さい。
汚れたまま使用すると、なんらかの異常で事故が発生した場合火災の原因になり、人身・建物・搭載している車等に重大な損害を与える事が有ります。

＜メ　モ＞

⚠ 注意

エンジンの回転速度の上限と下限を決めていますので、この範囲外では使用しないでください。
2500min^{-1}以下の低速で使用すると、コンプレッサが異常振動しコンプレッサの損傷の原因となります。

2. 停　止

★エンジンの停止方法は、エンジンの取扱い説明書を参照してください。

(1) ドレン弁及び空気弁を閉じ、コンプレッサをアンロード状態にして５分間程度運転しコンプレッサとエンジンを冷却させてください。

(2) 停止レバーをエンジンが止まるまで引っ張ってください。
　※キースイッチをＯＦＦにするだけではエンジンは止まりません。
　※エンジンが止まればオイル警報ブザーは鳴ります。

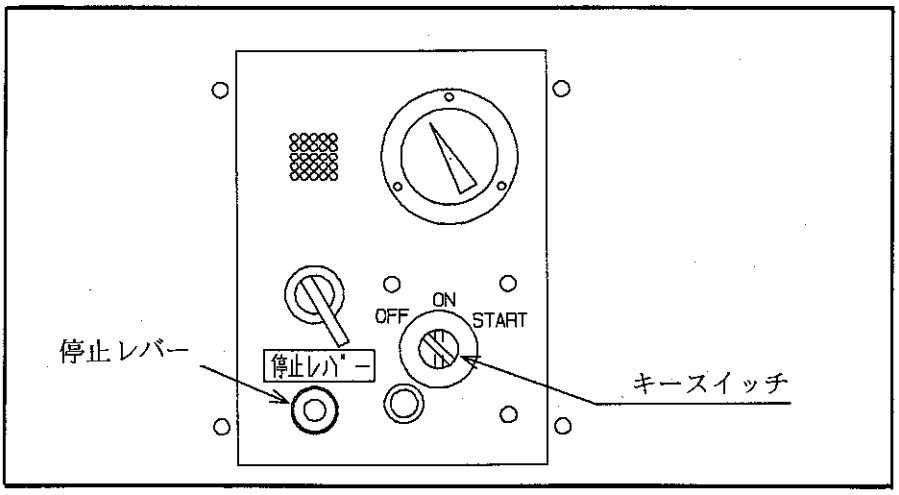
(3) キースイッチをＯＦＦにしてください。
　※オイル警報ブザーは止まります。

(4) ドレン弁及び空気弁を開き、空気タンク内のドレン及び空気を放出し、圧力をゼロにしておきます。

⚠ 警告

ドレン弁を開ける時は、まわりに人がいない事を確認し、徐々に開けて下さい。
急に開けるとドレンがいっきに出て危険です。
ドレン弁を開けてドレンを排出中はドレン弁の前に手を出さないでください。
異物（錆び等）が飛び出しけがをすることがあります。

(5) 燃料コックを「Ｓ」（閉）の位置に戻してください。



⚠ 注意

タンク内に圧縮空気を残したままにしておきますと、コンプレッサ内にドレンが発生しオイルが乳化しコンプレッサの焼付事故の原因になります。

各部の働き

1．オイル警報装置

コンプレッサとエンジン共に欠油警報装置が付いていますので焼付事故を未然に防ぎます。

1）コンプレッサ

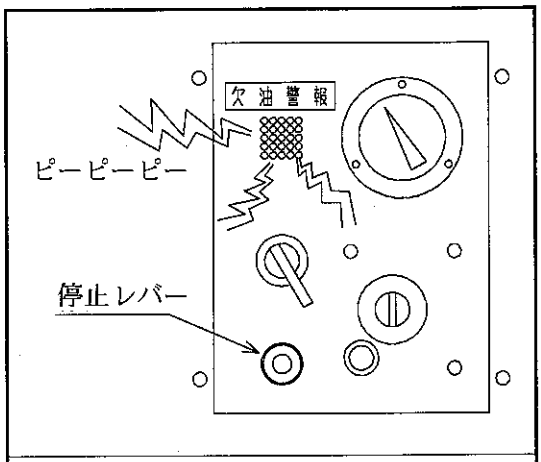
コンプレッサのクランクケース内にフロート式のオイルセンサを装備しています。

運転中にコンプレッサオイルが少なくなると、警報ブザーが鳴ります。

2）エンジン

オイルポンプにより強制潤滑されています。

エンジンオイルが少なくなると、油圧スイッチが感知し、警報ブザーが鳴ります。



欠油警報ブザーはコンプレッサとエンジンの警報を兼用しています。

コンプレッサを傾けて使用すると誤作動の原因となりますので注意してください。

⚠ 注意

オイル量の点検は、作業前・作業後に必ず行ってください。

運転中にオイル警報ブザーが鳴ったらコンプレッサかエンジンのいずれかのオイルが無くなった事を知らせるものです。速やかにエンジンを停止させて、オイルを補給してください。

警報ブザーが鳴ったままで運転すると、コンプレッサ及びエンジンの焼付事故の原因になりますので絶対にしないでください。

2．スローダウン装置

コンプレッサが規定圧力になりアンローダパイロット弁が作動すると、コンプレッサは無負荷運転になります。同時にスローダウン装置が作動しエンジンの回転を下げ、燃料の消費を少なくすると共にコンプレッサ・エンジンの耐久性を上げます。

【注意事項】　スローダウン装置は扱わないでください。

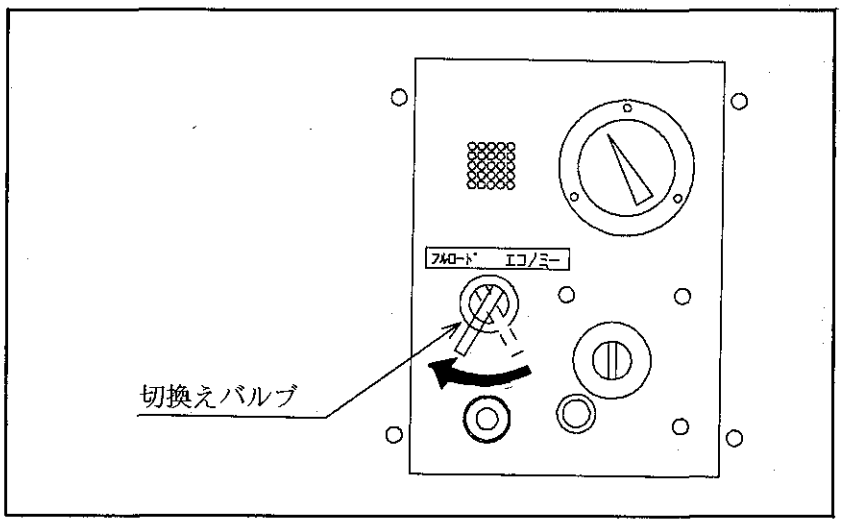
回転速度が下がり過ぎると異常振動やエンジンストップの原因になります。

3．エコノミー運転（ＡＰＥＴ－37ＣＹのみ）

空気量を多く使用しない場合、エコノミー運転に切り換えると、エンジンの回転が下がり、燃料の節約になり騒音も下がります。

（運転中でも切り換えることができます。）

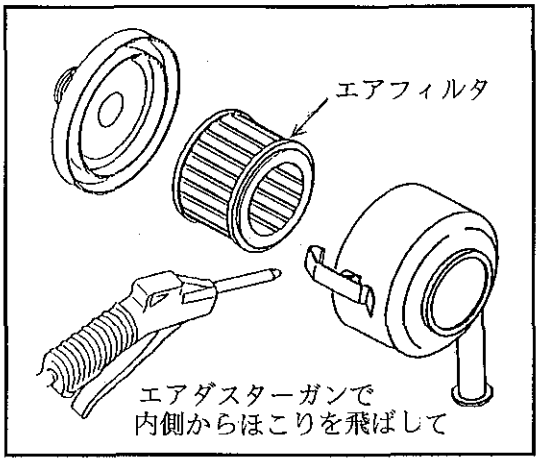
	フルロード運転	エコノミー運転
回転数	3600min^{-1}	3000min^{-1}
空気量	400Ｌ/min	300Ｌ/min
圧力	0.98MPa	



定期の点検・調整について

1．エアクリーナ

エアクリーナは、一定の空気量を吐き出させるために、エアフィルタを常に清潔な状態に保ってください。
軽くたたく又は、圧縮空気でほこりを飛ばして、エアフィルタを清潔にしてください。きれいにならないときは交換してください。



⚠ 警告

エアダスターガンを使用して清掃する時は、保護眼鏡を使用してください。
使用しないと目にゴミなどが入る事があります。
エアダスターガンは人に向けないでください。怪我をする事があります。

⚠ 注意

エアフィルタを清掃しないで運転を続けていると、オイルアップが激しくなり、コンプレッサの損傷の原因となります。

2．バッテリー

充電・放電を繰り返しますと、バッテリー液は減少します。
始動前に液量の点検を行い、少なければ市販の蒸留水を上限レベルまで補給してください。
バッテリー液が少なくなると充電できなくなり、セルモータによる始動ができなくなります。

⚠ 警告

バッテリーは取扱いを誤ると重大なケガ・死亡の原因につながります。
○火気厳禁
○充電する時は、換気の良い場所で行ってください。
○バッテリー液には十分注意してください。
○＋・－の極を正しく接続してください。

3．アンローダパイロット弁

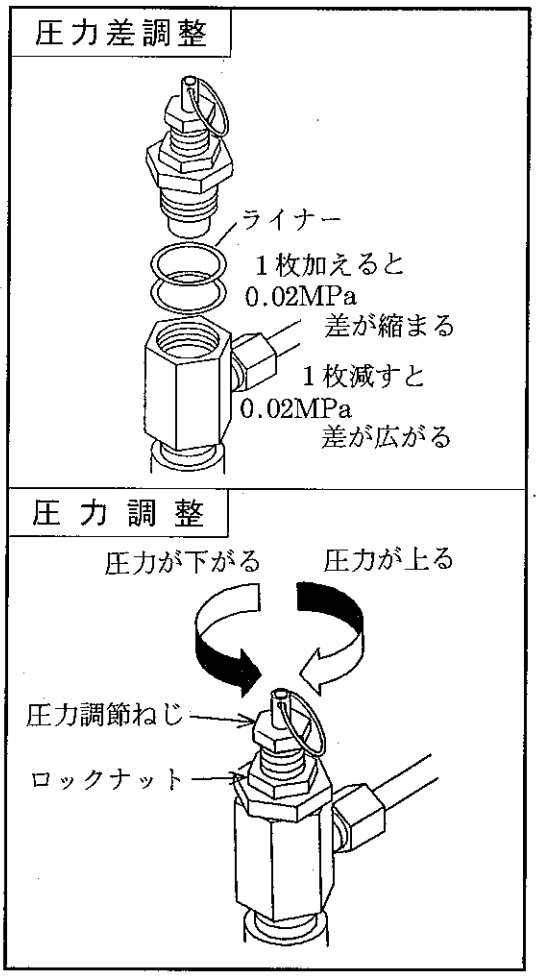
圧力を一定の範囲で保つ弁です。

0.98MPa〔又は1.37MPa〕で圧力上昇が停止し、0.78MPa〔又は1.18MPa〕に下がると圧力上昇を始める。この繰り返し運転ができず0.2MPaの圧力差がないときは、ライナーを抜いてください。

逆に0.2MPa以上圧力差があるときはライナーを加えてください。

0.98MPa〔又は1.37MPa〕になっても圧力上昇が停止しないときは、ロックナットを緩めて圧調節ねじを左に回して圧力を下げてください。

0.78MPa〔又は1.18MPa〕以下で圧力上昇が停止するときは、右に回して圧力を上げて下さい。



〔　〕内はＡＰＥＴ37ＣＹ－140です。

⚠ 注意

0.98MPa〔又は1.37MPa〕以上で運転しないでください。

コンプレッサ・エンジンの損傷の原因となります。

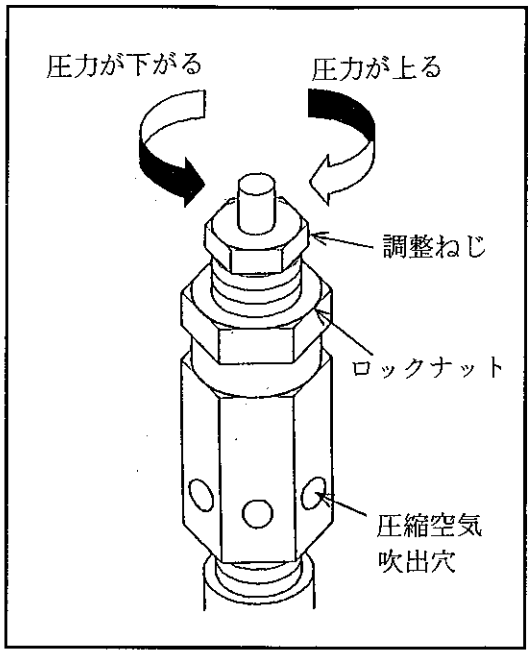
〔　〕内はＡＰＥＴ37ＣＹ－140です

4．安全弁

安全弁はコンプレッサ・エンジンの損傷、空気タンクの破裂から守る大切な安全装置です。

1.08MPa〔又は1.47MPa〕以上にならないと吹き出さないときは、ロックナットを緩めて調整ねじで圧力を下げてください。それでも調整できないときは、圧力をゼロにして分解掃除又は、交換してください。

〔　〕内はＡＰＥＴ37ＣＹ－140です



⚠ 危険

安全弁は必ず、規定圧力内で吹き出すように調整してください。

コンプレッサ・エンジンの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり、重大なケガ・死亡の原因につながります。

5．オイル交換

1）オイルの種類

オイルはコンプレッサオイルとエンジンオイルとは違いますので、それぞれ指定の純正オイルを使用して下さい。

コンプレッサオイル	純正コンプレッサオイル　CO68	(1.8L)
エンジンオイル	ディーゼルエンジンオイル　SAE10W−30	(1.1L)

エンジンオイルの詳細はエンジンの取扱説明書を参照してください。

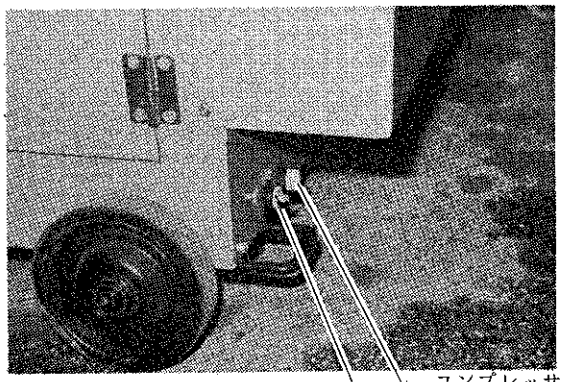
2）オイル交換時間

	運転時間	
	第1回目	第2回目以降
コンプレッサ	30時間	100時間毎
エンジン	20時間	100時間毎

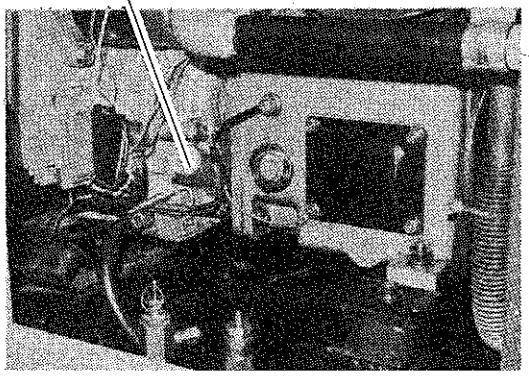
3）オイル交換要領

オイル交換はコンプレッサ、エンジン共にまだ暖かいうちに行って下さい。

オイル排出口は、パッケージ横（吐出しダクトの下）にあります。



オイル補給口



6．エンジン

エンジンの点検はエンジンの取扱説明書をご覧ください。

定期点検基準表

1．コンプレッサの性能・寿命を維持し、長時間良好な状態で運転するには保守点検を充分に行うことが必要です。
2．点検時期はコンプレッサの使用状況、取扱い方法などにより異なり、一概には決めにくいものですが一応の目安として下表に示します。
使用時間、運転時間のいずれか一方を点検時期の計算値として御考慮ください。
3．空気タンクが第二種圧力容器に該当するコンプレッサを使用される方は、1年以内ごと1回、自主検査を行いその記録を3年間保存してください。

●コンプレッサ

		毎日	30時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	300時間ごと	500時間ごと	1000時間ごと
油面計	油量点検	○							
異常音・異常振動	点検	○							
空気タンク	ドレン	○							
吸込ろ過器	清掃				○				
潤滑油	全量交換		(第1回目)●		(第2回目以降)○				
ボルト・ナット	緩み点検・増し絞め	○							
吸込弁・吐出し弁	清掃・カーボン除去						○		▲
アンローダパイロット弁	作動確認	○							
アンローダピストン	作動確認	○						▲	
安全弁	作動確認				○				
圧力計	点検					○			
空気漏れ	点検	○							
バッテリー	液量点検	○							

表中　●印は、初めて運転する場合に限ります。
　　▲印は、部品の交換時期です。

●エンジン

エンジンの点検は、エンジンの取扱説明書をご覧ください。

長期間使用しない場合の保管について

★詳細はエンジンの取扱説明書を参照ください。

●機械のすべての部分を点検してください。

－必要ならば修理をしてください。

－錆を防止するために、金属部分にオイルを薄く塗ってください。

●弁腕室のゴム弁を外し、油さしでオイルを約2cc注入しデコンプレバーを無圧縮の位置にしたまま、リコイルスタータを2～3回引張ります。
（エンジンを始動させてはいけません。）

●デコンプレバーを圧縮の位置にしてリコイルスタータをゆっくり引き、圧縮のある位置でとめます。
（圧縮のある位置では、吸排気弁が閉じており湿気によるエンジン内部の発錆を防ぎます。）

●ほこりのない、乾いた場所に保管してください。

不調診断

状況	原因	処置
エンジンが始動しない	燃料不足	補給する
	燃料の中に水が入っている	燃料を交換する
	バッテリーが放電している	バッテリーを充電する 手動で始動する
	燃料噴射ノズルの詰り	点検・清掃する
	空気タンク内に圧縮空気が有る	放出する
エンジンの回転が上がらない	燃料不足	補給する
	燃料噴射ノズルの詰り	点検・清掃する
	パッケージ冷却風入り口にゴミが詰りオーバーヒート	取り除く
圧力が上がらない	吸込・吐出しバルブの不良	交換する
	アンローダパイロット弁不良	点検・調整する
	締め付け部からの漏れ	増絞めする
	圧力計の不良	交換する
完全にアンロードしない	アンローダピストン摩耗	交換する
	締め付け部から空気漏れ	増絞めする
	シート面にゴミ・かみ	点検・清掃する
スローダウンしない	スローダウン装置作動不良	点検・調整する
アンロードからオンロードにならない	スピードコントロールバルブ作動不良	点検・調整する
中間段の安全弁が作動する	二段側バルブの不良	交換する
	アンローダピストン不良	交換する
潤滑油が無くなる	ピストン・シリンダ・リングの摩耗	交換する
	純正のオイルを使用していない	純正オイルを使用する

仕　　様

寸　法	全幅×奥行×高さ	mm	1020×590×845
質　　量		kg	160＋20（サブタンク）
コンプレッサ	シリンダ内径×行程	mm	$\frac{65}{48}\times\frac{54}{38}$
	常用回転速度	min^{-1}	3600［3000］
	使用圧力	MPa	0.78～0.98
	吐出空気量	L/min	440［315］
	制御方式		アンローダパイロット弁方式
	冷却方式		強制冷却
	空気取出し口径	inch	1/2B×1
	空気タンク容量	L	8＋32（サブタンク）
エンジン	形　　式		立形空冷4サイクルディーゼル
	排　気　量	cc	296
	常用回転速度	min^{-1}	3600
	燃料方式		直接噴射式
	始動方式		セルモータ始動(リコイル始動)
	使用燃料		JIS2号（軽油）
	燃料タンク容量	L	**5.4**

※［　］内の値は、エコノミー運転時の値です。
※エンジンの詳しい仕様については、エンジンの取扱説明書を参照してください。
この仕様は予告なしに変更することがあります。

サービスと保証について

●保証について

コンプレッサの無償サービス期間は、本機を出荷した時点から12ケ月又は500時間です。

ただし、期間中でも需要家側の取扱上の過失や、故意に起こした事故、故障については保証いたしません。

また、消耗品や交換の必要な部品は明治純正部品をお使いください。純正部品以外のものを使用して故障した場合、クレームの対象にならないことがあります。

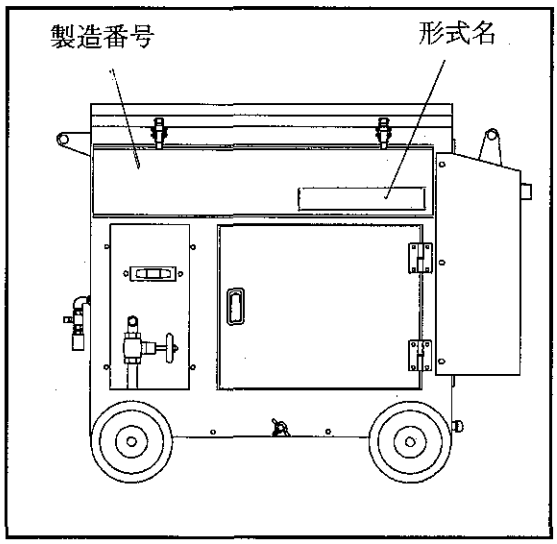
●アフターサービスについて

機械の調子の悪いときに点検・処置しても、なお不具合があるとき・不審な点及びサービスに関しては、特約店・販売店又は当社営業所にお問合わせください。

連絡していただきたい内容

・形式　　・製造番号

・故障内容（できるだけ詳しく）



お客様メモ

下記に御記入し、ご活用下さい。

形　　式	
製造番号	
耐圧番号	
ご購入年月日	年　月　日
ご使用開始年月日	年　月　日
ご購入先	TEL

営業品目

★小型往復空気圧縮機　★パッケージコンプレッサ　★エンジンコンプレッサ
★スクリュウコンプレッサ　★オイルフリースクロールコンプレッサ
★スプレーガン　★付属空気機器　★自動塗装装置
★塗装排気装置　★乾燥炉

事業所一覧

・本　　社　〒532-0027　大阪市淀川区田川２丁目３番14号
TEL.06（6309）1222 FAX.06（6308）7047
・大阪支店　〒532-0027　大阪市淀川区田川２丁目３番14号
TEL.06（6309）8151 FAX.06（6309）8157
・東京支店　〒135-0042　東京都江東区木場２丁目５番７号 KHビル内5階
TEL.03（3642）0701 FAX.03（3642）3200
・名古屋支店　〒468-0045　名古屋市天白区野並２丁目345番地
TEL.052（896）1921 FAX.052（896）6831
・岡山支店　〒703-8214　岡山市鉄160番地
TEL.086（279）2853 FAX.086（279）6460
・福岡支店　〒816-0921　福岡県大野城市仲畑2丁目6番44号
TEL.092（587）1247 FAX.092（502）6129
・北関東営業所　〒376-0013　群馬県桐生市広沢町２丁目3064番地の１
TEL.0277（52）3351 FAX.0277（52）7880
・静岡出張所　〒422-8034　静岡県静岡市高松1828-4
TEL.054（236）5688 FAX.054（237）6639
・金沢出張所　〒920-0062　金沢市割出町646 百山ビル内
TEL.076（238）6201 FAX.076（238）9662
・高松事務所　〒761-8083　高松市三名町656-2 宮脇書店 三名ビル201号
TEL.087（815）7820 FAX.087（815）7825
・広島事務所　〒731-0137　広島市安佐南区山本1-9-6 サンロード101号
TEL.082（832）2258 FAX.082（832）2289
・塗装機器事業　〒703-8214　岡山市鉄160番地
TEL.086（279）1821 FAX.086（279）2971
・圧縮機事業　〒703-8214　岡山市鉄160番地
TEL.086（279）1252 FAX.086（278）3798
・開発課　〒703-8214　岡山市鉄160番地
TEL.086（279）2791 FAX.086（279）6031
・塗装機器技術課　〒703-8214　岡山市鉄160番地
TEL.086（279）6201 FAX.086（279）2972
・圧縮機技術課　〒703-8214　岡山市鉄160番地
TEL.086（279）7745 FAX.086（279）6031

ホームページアドレス　http://www.meijiair.co.jp/

2002.02. 100